

H19地域バイオマス利活用交付金(ソフト事業)

九州農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考
										事業実施主体	農政局等	
大分県	宇佐市	宇佐地区	宇佐市	1. バイオマスの利活用の推進 (1) バイオマス構想の策定支援 ウ バイオマス構想策定委員会の開催 1) バイオマス構想策定懇話会の開催 (1回) カ その他バイオマス構想策定に必要な事業 1) バイオマス構想書の作成 2) 普及啓発資料の作成 啓発用の概要版を作成・配布(25,000世帯:全世帯) 小学生向け学習資料を作成・配布(2,000部) 市HPでも公表。	H19	バイオマス構想策定		・バイオマス構想策定懇話会の開催(1回) 学識経験者・地元企業・関係団体・市民代表などで構成する懇話会(13名)を開催し、庁内の作業部会で作成した構想書案について、内容の検討を行った。 ・バイオマス構想書の作成 懇話会での検討を経てバイオマス構想書を作成した。(H20.3.31公表)		本事業で設定した目標である「バイオマス構想の策定」に向け、「バイオマス構想策定懇話会の開催」、「バイオマス構想書の作成」、「普及啓発資料の作成」などの取組を実施し、設定した個別成果指標はすべて達成した。 また、目標である「バイオマス構想の策定」についても年度内に達成し、平成20年3月31日公表することができた。 今後は関係団体、住民代表などとの連携を図り、「宇佐市バイオマス構想」に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率94%、未利用系バイオマスの利活用率48%」を目標年次である2015年までに達成できるよう、バイオマスセンターや焼酎粕利活用センターの整備等の取組を推進していく。	宇佐市の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス利活用に向けた取組の展開が期待できる。	
熊本県	天草市	天草地区	天草市	1. バイオマスの利活用の推進 (1) バイオマス構想の策定支援 ウ バイオマス構想策定委員会の開催 1) 環境審議会の開催(4回)	H19	バイオマス構想策定		・環境審議会の開催(5回) 大学教授、地元有識者、市民(公募)から組織される。環境審議会(委員15名)を5回にわたり開催し、庁内で作成したバイオマス構想書案について内容の検討を行った。 また、バイオマス構想の実現に向けた、関係機関との推進体制の構築についても検討した。		本事業で設定した目標である「バイオマス構想の策定」に向けた、「環境審議会の開催」、「先進地域現地調査」、「バイオマス賦存量等調査」、「普及啓発」などの取組を実施し、設定した個別成果指標はすべて達成した。 また、目標であるバイオマス構想の策定についても年度内に達成し、平成20年3月31日付けで公表することが出来た。 今後は市民や民間などの関係機関と緊密な連携を図った上で、「天草市バイオマス構想」に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率98%、未利用系バイオマスの利活用率71%」の達成に向け、「菜の花プロジェクト」の拡大、や「バイオマスセンター」などの取組を推進していく。	天草市の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス利活用に向けた取組の展開が期待できる。	
				2) 先進地域現地調査(1回)				・先進地域現地調査(1回、11人) 環境審議会委員による九州管内の先進地視察(福岡県大木町、福岡市)を実施し、し尿や生ゴミのメタン発酵施設と下水汚泥の油温減圧式汚泥乾燥施設について調査を行った。				
				カ その他バイオマス構想策定に必要な事業 1) バイオマス構想の策定				・バイオマス構想書の作成 環境審議会での検討を経てバイオマス構想書を作成した。(H20.3.31公表)				
				2) バイオマス賦存量等調査 ・バイオマス賦存量調査				・バイオマス賦存量調査 市内にある廃棄物系、未利用系バイオマスの賦存量調査を行った。				
				・市民への意識調査(アンケート:1000人)				・市民への意識調査(アンケート:1000人) バイオマス構想策定に向け、市民へアンケートを行った。(回答数約4割)				
3) 普及啓発(1回)	・普及啓発(1回) 菜の花まつりにおいて、循環型社会を目指し本市が取り組んでいる菜の花プロジェクトを紹介し、市民の理解や環境問題についての意識高揚を図った。											

H19地域バイオマス活用交付金(ソフト事業)

九州農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考	
										事業実施主体	農政局等		
熊本県	御船町	御船地区	御船町	バイオマス活用の推進 (1)バイオマス構想の策定支援 ウ バイオマス構想検討委員会の開催 1)バイオマス構想検討委員会の開催(3回)	H19	バイオマス構想策定		バイオマス構想検討委員会の開催(3回) 大学教授、地元有識者、住民代表から組織される、バイオマス構想検討委員会(委員16人)を3回開催し、御船町が作成したバイオマス構想案について、内容の検討を行った。 また、バイオマス構想の実現に向けた推進体制についても検討した。		本事業で設定した目標である、「バイオマス構想の策定」に向け、「バイオマス構想検討委員会の開催」、「竹資源有効活用講演会」、「先進地等研修」などの取組を実施し、設定した個別成果指標はすべて達成した。 また、目標であるバイオマス構想の策定については年度内にタウン構想を作成し、平成20年4月30日に公表している。	御船町の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス活用に向けた取組の展開が期待できる。		
				2)竹資源有効活用講演会の開催(1回)				竹資源有効活用講演会の開催(1回) 御船町に豊富にある未利用系バイオマスである竹資源の有効活用に関する講演会を開催し、町議会議員、竹林所有者、竹産業関係者、住民など50人が参加し、地域におけるバイオマス活用の理解醸成を図った。					今後はバイオマス活用推進協議会、町竹振興会、NPO法人環境資源ネットワーク等の関係機関と緊密な連携を図ったうえで、「御船町バイオマス構想」に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利用率91.8%、未利用系バイオマスの利用率53.9%を達成できるように努める。 なお、廃棄物系については、家庭から出る生ごみや事業系生ごみを使ったメタン発酵システムの導入により、メタンガスを活用した電力・熱供給や、廃食用油の収集を強化し、BDF製造により全量利用に取り組む。 また、未利用系については町内に豊富に存在する竹資源をマテリアル生産やエネルギー生産に活用する取り組みを行い、本町のバイオマス構想の中心である未利用バイオマスの竹の有効活用に積極的に取組んでいく。
				カ その他バイオマス構想策定に必要な事業 1)バイオマス構想書の策定				バイオマス構想書の策定 バイオマス構想検討委員会での検討を経て、御船町バイオマス構想書を作成した。(H20.4.31公表)					
				2)先進地等研修(3回)				先進地等研修(3回、7人) 福岡県大木町、立花町及び山口県宇部市で先進地等研修を3回行い、循環型社会の構築に向けた取り組みや、竹を利用した事業化に向けた収集運搬体制や事業推進のための組織の構築手法など、バイオマス構想に必要な研修及び調査を実施した。					
宮崎県	小林市	小林地区	小林市	1.バイオマス活用の推進 (2)バイオマス構想の実現・実践 ア バイオマス活用に向けた全般的構想支援 ・小林市バイオマス活用協議会のバイオマス活用分科会の開催(3回)	H19	バイオマス構想の実現・実践		小林市バイオマス活用推進協議会のバイオマス活用分科会の開催(2回) 県、J.A.市、学識経験者、農業者、森林組合からなる小林市バイオマス活用推進協議会の2つの分科会のうち、バイオマス活用分科会(30名)を開催し、バイオマス活用の実現・実践のための取組について検証し、今後の小林市のバイオマス活用推進についての検討を行った。		小林市バイオマス構想に基づくバイオマス活用推進の取組のうち「消化液の液肥利用促進」、「地域住民への啓発普及」、「人材育成」について、本事業の「バイオマス構想の実現・実践」取組目標とし、各個別成果指標を設定し事業を実施した。 個別成果指標の「バイオマス活用に向けた全般的構想支援」では、小林市バイオマス活用協議会のバイオマス活用分科会の開催、小林市バイオマスセンターで行っている廃棄物系バイオマスの堆肥化、メタンガス化の取り組みについての農畜産物消費拡大イベントでのPRを実施。 「バイオマス生産・収集・輸送に関する構想支援」では、メタン発酵消化液のほ場での実証実験。 「バイオマス変換に対する構想支援等」では、消化液の成分分析、消化液製造方法(メタン発酵)の効率化技術の検証、廃食用油のBDF変換技術調査について実施し、設定した目標及び個別成果指標をすべて達成することが出来た。 今後も、県、J.A.市、学識経験者、農業者、森林組合等の関係機関と緊密な連携を図ったうえで、小林市バイオマス構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利用率90%、未利用系バイオマスの利用率82%」を目標年である2011年までに達成出来るよう、今回の取り組み結果を踏まえ推進してゆく。 また、木質バイオマス活用施設整備やBDF精製施設の整備等も推進する。	小林市の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス活用に向けた取組の展開が期待できる。		
				・農畜産物消費拡大イベントでの堆肥サンプル(1,000袋)及び消化液サンプル配布(300部)配布(1回)				農畜産物消費拡大イベントでの堆肥サンプル(1,000袋)及び消化液サンプル配布(300部)配布 小林市バイオマスセンターで行っている廃棄物系バイオマスの堆肥化、メタンガス化の取り組みについて、農畜産物消費拡大イベント(年1回、イベント参加者約1,000名)で消化液サンプルや堆肥サンプルの配布により、バイオマス資材を活用した農業生産への参加の呼び掛けや循環型農業社会について、イベントに参加した市民へ普及啓発を行った。					
				・BDF実証実験(1回)				・BDF実証実験(1回) 農畜産物消費拡大イベントで廃食用油のBDF化試験のデモを行い、廃食用油を使ったBDF燃料への取り組みについて、イベントに参加した市民へ理解醸成を図った。(イベント参加者1,000名)					
				イ バイオマス生産・収集・輸送に関する構想支援 ・消化液の実証試験(水田11a、茶3a)				消化液の実証実験(水田11a、茶3a) メタン発酵施設で得られる消化液が追肥用の化成肥料の代替に有利な資材であること、また多様な耕種への適応を目指し、消化液を用いた実証ほ場での実証実験として、生育、収量等の調査を行った。 水稲は慣行栽培並の生育、収穫となったが、茶については対照区と比べ秋芽(19/10/31)の収穫が少なめ、一番茶(20/5/3)は多いとの結果が得られ消化液の効果を実証した。					
				ウ バイオマス変換に対する構想支援 ・消化液肥開発研究				消化液肥開発研究 消化液成分分析、消化液製造方法(メタン発酵)の効率化技術の検証及び調査を宮崎大学と連携し行った。					
・BDF技術調査(1回)	・BDF技術調査 BDF変換施設整備計画の策定やBDF推進の中心となる技術者の育成のため、技術研修及び先進地調査(福岡県大木町)を行った。(1回×1人)												

H19地域バイオマス利活用交付金(ソフト事業)

九州農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考
										事業実施主体	農政局等	
鹿児島県	西之表市	西之表地区	西之表市	1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマス構想の策定支援 ウ バイオマス構想策定委員会の開催 1) バイオマス構想策定委員会の開催 (2回)	H19	バイオマス構想策定		・バイオマス構想策定委員会の開催(3回) 開催11団体から組織されるバイオマス構想策定委員会(委員27人)を3回開催し、市が作成したバイオマス構想案について、内容の検討を行った。 また、バイオマス構想の実現に向けた推進体制についても検討した。		<p>本事業で設定した目標である、「西之表市バイオマス構想の策定」に向け、「バイオマス構想策定委員会の開催」、「バイオマス講演会の開催」、「先進地域現地調査」などの取組を実施し、設定した個別成果指標はすべて達成した。 また、目標であるバイオマス構想の策定については年度内にタウン構想を作成し、平成20年5月29日に公表している。</p> <p>今後は学識経験者・地場産業関係者・各種生産組織代表者・行政機関等で構成する西之表市バイオマス利活用推進協議会を発足させ、関係機関と緊密な連携を図った上で、バイオマス構想に明記された目標である「廃棄系バイオマス99%以上の利活用・未利用バイオマス76%以上の利活用」の達成に向けて取組を推進して行く。</p>	西之表市の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス利活用に向けた取組の展開が期待できる。	
				カ その他バイオマス構想策定に必要な事業 1) バイオマス講演会の開催(1回)				・バイオマス講演会の開催(1回) 関係機関及び団体を対象に、地域におけるバイオマスの利活用に関する講演会を開催し、参加者約100人へバイオマス利活用についての理解醸成を図った。				
				2) 先進地域現地調査(1回)				・先進地域現地調査(2回、5人) 策定委員会委員による先進地視察及び現地調査(東京、熊本県・鹿児島県)を行い、生ごみ循環システムなどのバイオマス利活用についての調査を行った。 また、(社)地域資源循環技術センター主催の研修へ参加し、バイオマス構想に作成に必要な研修を受けた。				
				3) バイオマス構想書の作成				・バイオマス構想書の作成 バイオマス構想検討委員会での検討を経て、西之表市バイオマス構想書を作成した。(H20.5.29公表) また、構想書100冊作成し関係機関へ配布				
鹿児島県	南種子町	南種子地区	南種子町	バイオマスの利活用の推進 (1) バイオマス構想の策定支援 ウ バイオマス構想検討委員会の開催 1) バイオマス構想検討委員会の開催(3回)	H19	バイオマス構想策定		・委員会の開催 3回 各生産団体の代表者、住民代表の地区公民館長代表者、関連産業の代表者、研究機関である九州沖縄農業研究センター、県、農協、町等に加えバイオマスアドバイザーで構成されるバイオマス構想検討委員会を3回開催し、町が作成したバイオマス構想案について、内容の検討を行った また、バイオマス構想の実現に向けた推進体制についても検討した。		<p>本事業では「バイオマス構想の策定」に向け、「バイオマス構想策定協議会の開催」等の取組を実施し、設定した個別成果指標はすべて達成した。 また、目標であるバイオマス構想の策定については年度内にタウン構想を作成し、平成20年5月29日付けで公表している。</p> <p>今後は種子屋久農協、関連業者等の関係機関と緊密な連携を図った上で、「バイオマス構想」に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利利用率90%、未利用系バイオマスの利利用率40%」の達成に向けて、「家畜排せつ物や生ゴミ等の堆肥化および堆肥利用の促進」、それに伴う「堆肥センター整備」や、「林地残材の畜産の敷き料利用」、「竹利用等の取組」などの取り組みを推進していく。</p>	南種子町の総合評価のとおり、事業実施計画で定めた目標及び個別成果指標を達成しており、今後ともバイオマス利活用に向けた取組の展開が期待できる。	
				カ その他バイオマス構想策定に必要な事業 1) 先進地事例調査(1回)				・先進地事例調査 (1回、2人) 先進地(岩手県葛巻町)事例調査を実施し、林地残渣を活用した畜産敷料や木質ペレットや家畜排せつ物の利活用方法などの調査を行った。				
				2) バイオマス研修(1回)				・バイオマス研修 (1回、2人) バイオマスフォーラム南九州(鹿児島市)に参加し、バイオマス構想に作成に必要な研修を受けた。				
				3) バイオマス構想書の作成				・バイオマス構想書の作成 バイオマス構想検討委員会での検討を経て、南種子町バイオマス構想書を作成した。(H20.5.29公表)				